

1年生 接続期を振り返って

4月から保小連携の取り組みをスタートし、早4ヶ月が経ちました、同時に、1年生の保育から学校教育への接続期も終わりを迎えました。年長児の時に担任をしてくださった細川先生に、保育でつけてきた力が小学校で発揮できているか参観していただきました。

【保育所の細川先生に7/13に参観していただいて】

【学習】いつ参観しても、授業では先生の話をよく聞いて頑張っている。時々、手遊びをしたり先生の方を向いていない子もいるが、45分席に着いて学習に取り組んでいる。

図工の時間には、友だちの机の上に置いてある作品をお互に見合っ、よいところを書いていく活動をしたが、どの子も真剣によい作品を探し、ワークシートに書き込んでいた。真面目に学習に取り組む態度がすばらしい。

【劇の発表】国語科「おおきなかぶ」の音読劇

保育所では、劇を発表する場が多く、劇の指導には力を入れてきた。今回は恥ずかしがっていたので、もっと堂々と演じてほしい。



好奇心・意欲をもって取り組む姿勢につながっている
「やってみよう」「やってみたら楽しい」

【年長児の時に、小学校入学を意識して取り組んできたこと（細川先生より）】

★一つの事を身につくまで継続する。

- ・弁当袋のリボン結び、編み物
- ・折り紙、あやとり、プール、
- ・鼓笛、運動会の跳び箱、コマ回し

- その子のもっている力を全力で発揮できる機会を与える
- 子どもが「できた」とはっきり感じることができるようにする

★子どもたち一人ひとりの得意なことを知り、がんばりを認める。

様々な経験をさせることで、

- ・絵本の読み聞かせ
- ・クッキング・生活発表会
- ・お店ごっこ・プレイナイト

- ・体を動かすことが得意な子
- ・手先を使って編み物などをすることが得意な子
- ・劇などで役になりきって表現することが得意な子
などを把握することができた。

★保育者が様々な活動（遊び）を子どもたちと一緒に共感し、本気で楽しみ、感動する。

友だちと競い合い、教え合い、励まし合い
できるようになった
完成した
保育者や家庭で認められた
という経験が『やればできる』という自信につながっている。